

1. 評価結果概要表

作成日平成 19年 10月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	4078100080		
法人名	有限会社 里心		
事業所名	グループホーム 里心		
所在地 (電話番号)	福岡県八女郡黒木町大字木屋6337-1 (電 話) 0943-45-0639		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年7月12日	評価確定日	平成 19年 10月 29日

【情報提供票より】(19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	6 人	常勤	5 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(66,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,300 円

(4) 利用者の概要(7月 12 日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81.7 歳	最低	68 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表はグループホームが地域密着といわれ始めるまえより、地域を意識しており、3つの理念の中に「私たちは、地域・社会に有意義な、責任あるグループホーム里心として行動するスタッフである」と早い時期より掲げており、地域に根付いた施設作りに積極的に取り組んできている。その信念を職員も理解しており、日々の仕事のなかで常に意識をしながら、支援を行っている。農業地帯ということもあり、地域の住人より農作物を頂いたり、以前の水害時には、地域の婦人会が炊き出しを行い食事の世話をしてくる等、地域の協力体制も整っている。利用者が、スタッフに対して送ってくださる格言にも名言が多く、いくつかは施設内に掲示されており、その言葉に職員は力をもっているといわれる。利用者同士の関係もよくそれぞれが自分の役割を認識しており、それは職員側が提示したのではなく、自然と役割付けが行われていたとの事で、利用者が食事介助を行っている場面も見られており、利用者主体のケアの実践が行われている事が確認できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回課題としてあがった緊急時の手当てに対しては研修会に積極的に参加を行っている。また非常災害対策としてもホームでの自主訓練を行ったり、消防署に依頼して避難訓練もやっている。地域住人との交流や周辺施設との協力体制については、ホーム便りの配布や協力の働きかけを行っており、現在では、農作物を持ってきて頂いたり、近隣の施設からも歌謡ショーに招待して頂くまでになっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム長が説名を行い、1人ずつ評価項目の記入を行ってもらい、ミーティング内で意見をもち寄り一緒に自己評価に取り組んでいる。以前は出来る出来ないのみだったが、徐々に内容を深く検討するようになってきており、日々取り組むべき事を意識しながら仕事に従事している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>予定としては2ヶ月に1回行っていくつもりだったが、地域的に農業地帯で農繁期の開催が難しく、また、職員の退職も続き人員体制に無理があり、昨年度に1回しか行っていない。その際は運営推進会議の意義や施設の進捗状況、施設見学等が主な内容で特に改善点等の意見まではなかった。その後は開催までに至ってなく、職員体制の整備が現在の課題となっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>家族会の開催も行ったが、家族からの意見はなく、施設側からの報告が主な議題になっていた。近隣の家族が来訪時には利用者の近況報告を行うとともに、意見がないかを確認しており、必要なものに対してはミーティング内で職員に話を行っている。預かり金や受診の状況も定期的に報告を行っており、遠方の家族には郵送にて送付している。また、家族によって知りたい情報も異なり、個別に対応も行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>代表自ら隣組にはいっており、道路愛護の掃除や、地域にある納骨堂の掃除等を地域住民と共に守っている。また、地域の行事にも参加をしているが、現在職員体制が厳しい状況にあり、外出に制限されてしまっている状況がある。地域の施設とのかかわりも前回の外部評価の課題にあげられており、積極的に働き掛けを行ってきており、交流の場も少しずつ増えてきている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	もともと代表がGHが地域密着といわれ始める前から地域密着を意識しており、開設(H13.5)より「私たちは、地域・社会に有意義な、責任あるグループホーム里心として行動するスタッフである。」という理念を「入居者の立場に立つスタッフ」、「家族の方々からも安心していただけるスタッフ」と共に掲げている。地域の消防団へもホーム長自ら積極的に参加しており、活動を行っており、地域との関係作りを行っている。地域密着型といわれ始めてからは、特に町のイベント参加にもホームとして参加したり、協力をする事をこころがけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝朝礼時に全員で理念を読み上げており、意思の再統一を図っている。スタッフも以前は遠方から来る職員が多かったが、最近地域に住むものも増え、より地域の情報を収集することができるようになってきた。地域との関係も深まり、野菜を持ってきていただくことも増えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表が隣組に入っており、道路愛護等の掃除にも参加していたり、地域にある納骨堂を掃除したりと地域住民とともに守っている。地域にある特養施設への歌謡所ショーへ参加をさせて頂く等、地域周辺の施設との関係作りも積極的に行っている。また、地域で開催されている福祉フェスティバルが10月頃に開催されており、利用者が作成したものを提示して頂いている。以前家族に事前に了承を頂くまえに行ってしまった事があり、現在は事前に了承を得るよう配慮を行っている。	○	現在職員数が厳しく、地域の小学校の運動会への慰問が出来なかった。また地域の敬老会参加も職員不足で参加できてなく、職員体制を出来るだけ早くに整え、地域の行事の参加に繋げていって欲しい。また、福祉フェスティバルへの展示が現在は一部の利用者に限られており、今後早めに準備等にとりかかり、多くの利用者の展示を家族了承のもと行っている事を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の外部評価を受けるにあたってホーム長が事前の説明会にも参加を行い、その後全職員に説明を行った上で1人ずつ評価項目の記入を行ってもらい、意見を持ち寄り一緒に自己評価を行っている。職員も以前は出来る、出来ないのみの回答だったものが、徐々に内容を深く考えるようになってきており、日々取り組むべき事を意識しながら、仕事を行っている。以前、トイレの間仕切りカーテンの為、プライバシーが守られているのか等の指摘を受けたが、その結果職員全員で真剣に検討を行い改善を常に意識しながら、日々仕事に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町役場の福祉課長様や社会福祉協議会の方、区長、支部長、老人クラブの方、行政区の評議委員の方達に参加をお願いし、2/7に第1回の運営推進会議を行い、運営推進会議の意義や利用者状況、施設見学を行っている。その後職員不足で次回の開催日が未定の状況で、外部評価の報告までは運営推進会議内では行っていない。また、農業地帯の為、農繁期にはメンバーが集まりにくく開催が困難で、地域的には農閑期でないと厳しい状況あり定例化に至っていない。家族参加も呼びかけを行っているが、参加には至らなかった。	○	現在近隣の施設の職員への参加には至ってなく、施設連携も含め参加の呼びかけを行っていきたい。お茶会等家族が気軽に参加出来る雰囲気づくりから行い、事前にメンバーが集まりやすい時期を確認し早めに連絡を行いながら、参加しやすい状況を施設側で工夫して定例化に繋げていって欲しい。また、どういった意見が聞かれたのかを、明記する事で、次回の開催内容を明確にし、メンバーも事前に意見をまとめられる状況をつくり出すことでの積極的な参加への意欲を引き出すことに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃より介護保険更新申請時やそれ以外でも市の役場に出向き、現在の入居状況等を報告しており、福祉課長自ら運営推進会議にも参加をして頂く等、関係作りに努力している。現在相談まではまだ行ったことはないが、最近は福祉課長の方より声を掛けて頂けるようになっている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会は行っており、報告書を作成しているが、業務の都合上全員の参加までは至ってなく、知識不足の部分はある。	○	市が作成しているパンフレット等を勉強会で活用していくことで、より理解を深めていって欲しい。また、運営推進会議に社協の方の参加もあり、その中で社協の方に説明を行ってもらい、スタッフはもちろん家族や地域の方々にも理解して頂けることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	近隣の家族に対しては来訪時、健康状態はその都度記録を見せ説明を行っている。また、金銭管理に関しても月1回は領収書の原本をまとめて出納帳の記録と共に確認をして頂いている。遠方の家族へは、2月に1回ホーム便りと共に担当がメッセージを書き送付している。緊急時の連絡はその都度電話にて対応、また家族によっては知りたい情報が違う事もあり個別にも報告を行うように注意を行っている。職員が勉強を希望し退職者が多かった為、家族への連絡が行き届かない状況があった。	○	スタッフの異動が今回多くあり、家族への報告が出来てないこともあったようで、今後体制を整えて報告を行うことをお願いしたい。また、職員の定着に努力して欲しい。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	去年は運営推進会議と合同で家族会を行っていたが、今年に入り職員の人員が減り、家族会の開催までに至らなかった。また、去年はアンケートを1回行い、家族の意見、要望を聞きだし、職員全員でミーティング内で検討を行った。	○	職員事情での家族会開催が厳しい状況にあり、職員体制を早く整え家族会等の開催に努めて欲しい。また、前回アンケートを行っていたのを今後復活させ、家族の意見、要望の聞き取りを行っていくとの事で、さらに家族の満足していく介護がなされる事を期待したい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	通勤距離の問題や介護の仕事に自身がない等の理由だったり、勉強の為に退職する職員もおり、長く継続しない状況が続いている。人材が減った事で、残った職員に負担がいかないように募集を行ったり、人材派遣会社への依頼も行って見たが、思うように集まらず、会議や行事にも影響が来ている。利用者が寂しがらないように、辞めても職員には、出来るだけ遊びに来て頂くように話している。また、天気の良い日にはドライブに連れ出したり、気を紛らす為の支援を出来る限り行っている。	○	今後も人材の募集はひき続き行っていくとの事で、早く人員体制を整えていける事を願う。また、介護に対しての自身を持てるように研修等にも多く参加をして頂くように努め、施設内での伝達研修も心がけて行っていき自身を身につける機会づくり期待したい。
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用にあたっては、年齢・性別で制限はしていない。職員の趣味・得意なことを、ケアの場面で活かしてもらっている。現在も資格取得を目指しているもの、また、ボランティア活動に参加しているものもおり、人員体制厳しい状況あるも出来る限り勤務の調整を行い、事業所としても積極的に後押しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表より直接、ミーティング内で入居者の権利についての話しを行っている。また、事例等課題を利用し、職員全員で検討を行っている。日々の現場内で気になった場面では、その場で伝えるようにしており、大きな問題があった場合はその後話し合いを設けている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の実践の中で管理者やホーム長が指導者となって教えている。また、毎月のミーティングの中で勉強会も行っている。外部の研修に関しては、現在職員数が厳しい状況もあるが、希望をきいたり代表から個々の能力に応じた研修への参加も勧めており、勤務調整を行いながら参加に向けての対応を行っている。また、資格等、個人の希望に応じて勉強をしたいという希望に対しても出来るだけ、対応を行っている。	○	代表が個々の能力に応じての研修計画を立てている所までは行っており、現在は、その時その時の研修に対し希望を尋ねたり、能力をみながら代表より参加を促している。今後職員の意向や能力を把握し、必要と思われる研修の計画を個々の計画として考え、職員の質の向上に努めていきたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近郊の施設との研修会には職員の勤務状況をみながら、積極的に参加を行っている。また、近隣にグループホームが3つあり、1つのホームとは、視察や交流を積極的に行っている。	○	今後、他のグループホームとも積極的に交流を持つよう自ら働きかけ、情報交換を行っていく予定とのこと。より地域に根付いたホームに、地域の施設とともに協力しあい変わっていくことに期待したい。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	以前は病院からの紹介が多くあったが、地域に馴染んできてからは利用者の家族や家族の知人からの紹介も増えてきている。見学可能な状況ならば、出来るだけ施設に来て頂き、また、自宅や入院先の病院へも訪問を行い、情報収集をおこなっている。家族のみの見学で、本人には「遊びにいこうか」といいながら、入居に至り、夜間不穏になった利用者もあり、職員が出来るだけ側で寄り添ったり、家族と一緒に宿泊をしてもらったり、面会の頻度の調整をお願いして、利用者の「家を離れる」という不安な気持ちを大切に考え対応にあたっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	農作業や、料理等昔ながらの方法を指導を頂きながら、日々の生活を行っている。職員が悩んでいたりと、落ち込んでいたりすると「悩むなら行動したほうがよい」等、自分の経験から言葉をかけてくださり、力を頂いている。その言葉には多くの名言があり、いくつかは壁に貼り、常に勇気を頂きながら仕事に取り組んでいる		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前行っていた事や好きだった事等、情報収集をした中で職員がきっかけ作りを行い、その反応や状況を見ながら各利用者の希望につなげていけるように支援している。また、日々の生活の中で興味を示した事に対しても、危険のない限り行って頂き、表情等を観察しながら本人の活動内容に加えていくよう常に観察を行っている。会話や作業が厳しい利用者に対しては表情の観察を常に行い、不穏にならないように心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者にそれぞれ担当をつけ、利用者のアイデアや希望を取り込みながら、ケアマネが担当者に確認をおこなっている。また、家族来所時にも近況報告を行い、家族の意向や要望を伺いながら計画に反映を行っている。	○	プランの検討会議に家族の参加はなく、出来上がったプランを説明を行いながら、意向確認を行っている状況にあり、できれば、利用者及び家族にも参加をして頂き、また、遠方に住む家族には、電話等で聞き取りを行いながら、プランの中に反映を行って欲しいと思う。現在プランの中に、地域への墓参りや選挙、地域の敬老会等地域への関わりの内容までは、プランの中に反映されてなく、実践では支援が行われている事より、プランにあげ、職員全員が同じ用に対応を行えるようになることを期待したい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的にはケアプラン見直しは、3ヶ月に1回行っているが、状態変化が見られた場合はその都度職員と話し合いを行い、プランの見直しを行っている。また、日々の申し送りの中でも状態の変化については常に伝えており、観察を行っている。家族へは、プランを伝えた上で意向の確認を行いながら、同意を頂き実践へと繋げている。	○	見直しについて、家族に現状の報告を月1回は行い、意向の確認を行いながら、常に利用者本位のプラントなるよう家族との意見交換を密に行って欲しい。特に遠方に住む家族にとっては、会える日が少ない分、余計に連絡を行い家族との連携を密に行っていくことに期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	以前の利用者が亡くなった時に、仲のよかった利用者が葬儀に出たいとの希望あり、職員が喪服を準備し一緒に同行をおこなったり、以前の管理者の身内の葬儀にも、利用者より参列したいとの希望を頂き、参列して頂いた。利用者が入居前より通院していた病院への受診や、本が好きな方には移動図書や町の図書館へ同行を行っている。また、地域の方々の介護保険への疑問に対しても回答を行っており、地域に根付いた多機能性を活かしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、かかりつけ医を確認し、希望があれば入居前の医療機関を継続して頂く事も可能な旨、説明している。施設側より協力医療機関にお願いに行き、H14年より月1回往診に変更をして頂いており、緊急時の24時間対応も可能な為、家族希望で変更をした利用者もいる。協力医療機関の往診やその他の受診時、また各利用者のかかりつけ医においても、職員が主に付き添い医師との関係作りも行っている。受診の結果はその都度家族に報告を行い、また、家族が付き添った場合も必ず結果を確認しており、状況の把握は行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	見取りについては家族にも早い段階から希望をきいており、何度も再確認を行っている。また、本人からも「お世話にならにゃん」、「お世話になるけん、安心しとってよかな」等の言葉も聴かれており、自然に会話で本人の意向の確認ができる雰囲気作りも行っている。重度化になった場合は毎日のように家族と医師、ホームと医師、家族とホームで直接話し合いを行っており、方針の共有を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する記録物は、原則外部に持ち出さないように徹底して指導を行っている。また、全体ミーティングで、取り扱いの注意事項の説明も行っている。普段の言葉遣いや対応も、職員同士が常に意識し合いお互いに注意をしたり、代表から直接気になった時には注意を行うこともあり、問題が大きい場合には、ミーティングの中でも話を行うようにしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、まず何をするかを聞く事から1日がスタートする。危険がない方に対しては、独力での外出も自由にして頂いており、職員が安全を確認しながらも利用者の希望を尊重している。入浴・食事も特に定めているわけではなく、利用者のリズムに合わせている。言葉でいえない利用者に対しては表情等をみながら、対応を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に希望を聞きながら献立を立てたり、畑やもらった野菜を利用し何が作れるかを一緒に検討したり、買い物もお付き合い頂いている。米とぎや、皮むき、引き膳、茶碗をすすぐ等、個々の出来る範囲で手伝いをして頂きながら、味見も意見をきいている。また、利用者が介助をする場面もあり、それぞれの役割を理解している。食事の嗜好も把握しており、食べれない人には代替食を準備して対応している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、1日置きでの入浴と考えているが、お風呂は毎日沸かしている状態で入りたいとの希望があれば、入浴可能な状態である。介助浴が多く利用者個人のペースを大切に、毎日日本人に意思を確認しながら湯の温度や時間の考慮している。また、入浴剤をいれ、香りを楽しんで頂いている。お湯は個々に入れ替えており、清潔保持に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、料理、農作業、買い物等職員がお願いする事もあるが、自然と利用者自らが役割をきめており、それぞれの分野で活躍を行っている。また、利用者が食事介助をする場面もみられ、利用者同士の支援も行われている。アクティビティも歌や、テレビ、レクリエーション、手芸、ドライブとその日に行いたい事をそれぞれが行っており、余暇を楽しんでいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	常に自由に出入りできる状態で、職員に断りをいれ利用者自ら自由に日々外出を行っている。また、地域の敬老会や行事、墓参り、農作業等、職員の体制上すぐに対応出来ないこともあるが、出来る限り希望に副って対応を行うようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	6:30~19:00までの間は鍵を掛けずに自由に出入りできる状態で、利用者が、散歩に出かけていく姿も多く見られており、活動的に動かれている様子が伺える。また、スタッフも利用者の行動をきちんと把握しており、外出時にはその姿を確認しながら、さりげなく注意を行き届かせており、利用者も行き先をスタッフに伝えて出かけていくという関係づくりも行っている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回(昨年は3月)、火災(昼・夜想定)や水害時の非難訓練を消防署や利用者と共にやっている。備蓄として、以前行っていた店の空き店舗内にある大きな冷蔵庫を利用し野菜を貯蔵しており、水は井戸水、電気は自家発電、コンロやかまども装備されている。また、非常災害時には、婦人会による炊き出しがあり、地域住民からも農作物を頂けるような関係づくりも普段より行っている。ホーム長自らも地域の消防団に加入しており、消防団との関係づくりも行っており地域と共に災害に取り組む体制が整えられている。		
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を把握し必要に応じ記録に残している。各利用者の嗜好も把握しており、希望に応じて代替食等での対応も行っている。また各利用者の状況に応じ、調理方法や、食材、食器類の検討も行っている。Dr.支持で定期的に血液検査も行い、また体重測定を行いながら体重の増減をホーム便りとともに家族へも報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のあった飾りつけや生け花を飾り、ソファを共有空間に多く備え付け、入居者同士の交流の場となるように工夫している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やたんす等個々の馴染みの物での居室空間を作っており、個人の写真や季節毎に変化する装飾もされている。また、カーテンもそれぞれの好みに合った色で購入し、入り口には暖簾をかけ、居心地よい雰囲気をつくりだしている。		